

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後に入ります)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホームことほぎ庵
(ユニット名)	2F
所在地 (県・市町村名)	福島県いわき市
記入者名 (管理者)	古川 一広
記入日	平成 20 年 9 月 1 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>笑顔の絶えない家庭的な雰囲気の中で地域の方々と触れ合いながら自分らしく穏やかに生活ができる。</p> <p>1. ゆとりの生活 2. 笑顔のある生活 3. 自然体の生活を理念としている。</p>	○	6人を1ユニットとしゆとりある空間で、ゆとりある生活を支援している。また住宅地の中にあり、近隣との関わりも無くてはならない関係を築き上げている。またこのような関係を更に深めていきたい。
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>要所に掲げ、忘れることなく、常に確認しながら理念を共有し、実践できるように日々努力している。</p>	○	時にはお互いに確認しあい、復唱する機会を作りたい。
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる</p>	<p>地域の皆様との関わりを、実際ご家族様に見て頂いたり、説明したりしている。また一緒に行事などにも参加して頂いている。</p>	○	クリスマス会、音楽会、夏祭りなどに参加して頂いている。今後も継続したい。
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている</p>	<p>住宅地の中にあるため、日常的に挨拶を交わし、自然に生活に密着しており近隣の皆様は気軽に立ち寄っている。</p>	○	利用様は我が家と言ひ、散歩に出かけると近所の皆様は「ことほぎ庵のおばあちゃん」という。気軽な付き合いが出ている。
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>地元の人々との交流に努めている。自治会の地域活動に積極的に参加している。</p>	○	運営者の自宅が隣接しており、施設と自宅が一体となり必ず参加し、交流をしている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	近隣の高齢者に声かけを行い、行事参加を促している。また高齢者の方のボランティアの受け入れも行っている。	○	クラブ活動などを計画し近隣の高齢者の皆様と関わる場々と機会を検討中。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	意義を十分に理解している。評価を活かし改善には力を入れている。	○	評価の結果をスタッフ全員で確認し内容を協議し、具体的に改善内容を話し合っている。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	基本的にスタッフ全員の参加を促し会議のあり方、報告、評価をその場で受け止め、サービスの向上に活かしている。	○	近隣または包括支援センター、各機関の関係者、ご家族様、時には利用者様の参加を御願いしているためスタッフの参加は無くてはならない。出来る限りその場で意見などを受け止めるようにしている。施設会議に持ち越す場合も、早々に会議を開き問題解決に向けて話し合いをしている。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行き来する機会は十分に作っている。	○	電話でのやりとりも行き、疑問点など気軽に相談にのってもらっている。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	必要とする人への活用を勧めたり、また関係者との話し合いを行っている。	○	実際申請を行って利用する利用者もあり、ご家族様と話し合いながら制度申請に協力支援している。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修等で学ぶよう努力している。虐待が事実あるか利用者様、スタッフに聞き取り調査も交え見過ごしの無いように注意を払っている。	○	研修に参加したり、施設内研修を実施している。月に1回の会議に諸々の勉強会を開催している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居前または入居決定時そして入居時、度重ねて説明をしている。入居後も疑問点があれば、質問を受けている。</p>	○	<p>必要が出てきた時も尚更ご家族様に電話をしたり来所して頂き納得するまで話し合っている。</p>
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>月1回の相談員の派遣を受け入れ、外部者へ表される機会を設けている。</p>	○	<p>利用者様は機会があっても無くても意見や不満を訴える。またスタッフ側からも意見や要求を聞くように声かけをしている。</p>
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>利用者様に関わること全てに際し家族に報告をしている。</p>	○	<p>ご家族様の来所がない場合は電話での報告を行っている。カンファレンスの時に家族に報告している。</p>
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>特に機会を設けて意見を聞く事は無いが、来所時直接話しを聞いたり、意見を求めたりしている。</p>	○	<p>外部に現せる機会は家族の判断であり、このような事態が発生した場合、家族と良く話し合い、スタッフとの会議を持ち運営に反映出来るよう努力する。</p>
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>良く聞き反映させている。</p>	○	<p>スタッフの意見を聞く機会を設け、会議や日常的な会話の中で意見を求め、反映できるよう話し合っている。</p>
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>勤務調整の協力が充分にある。</p>	○	<p>看取り発生。急変時。職員、その家族の急用など連絡網などで連絡、対応できるようにしてある。</p>
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>かなり努力している。利用者がストレスを抱えると同時に、スタッフもストレスを抱える状況となるため、出来る限り広い範囲でストレス解消が出来るように考えている。</p>	○	<p>今後どのように取り組んでいくか大きな課題としてとらえている。離職に関しては事情により避けられない状況の時もあり、努力をしてもどうにもならない時がある。介護職の新人育成も考えている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	必要に応じた研修や勉強会を実施している。また段階的に専門的な研修に参加している。	○ 経験に応じて認知症介護実践者研修を受講している。また各地区の研修会にも出来る限り参加している。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地区の連絡協議会の管理者会議に参加	○ 全国認知症グループホーム協会、福島県認知症連絡協議会に加入し、全国、県内のグループホームの情報や、研修、勉強会に参加し、近隣のグループホーム訪問や、管理者同士の意見交換を行いサービスの質の向上に取り組んでいる。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	ホーム内外にて職場で感じている事などを話せる機会を作りストレスが軽減できるよう工夫している。	○ 懇親会、小旅行を行いストレスの解消に努めている。また各自の能力が十分に発揮できる機会と場所を提供し、ストレスを抱えないように実践している。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	各自の能力や努力を十分認めている。勤務状況も良く、評価も充分している。	○ 必要とする研修に積極的に参加する事、また役割的に責任を持つ立場の確保をし各自が向上心を持って働けるようにしている。
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	訪問を行い利用するまで本人の要求に十分応えられることを確認し、利用者様の不安や要求を聞いている。	○ 相談があった状況の中で、担当の介護支援相談員や家族から基本情報を頂き、訪問や、施設見学を実施し本人と話し合いが出来るよう努めている。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	施設見学または訪問を行い利用するまで本人の要求に応えられることを確認し、家族の不安や要求を十分聴いて受け止めている。	○ 居宅支援事業所や包括支援センターに同時に相談する方法など広い範囲で適切なアドバイスが出来るように、施設に来て貰い見学と同時によく聴ける時間を確保し、受け止め努力している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p> <p>見極めることがとても大切と受け止め、実践している。</p>	○	必要とする他のサービスや医療連携などに関してもその時に見極めながら本人や家族と話し合い対応している。
26	<p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p> <p>家族の都合により緊急を要する場合は除いてはなるべく本人の希望を取り入れ馴染める様な状況で入居を勧めている。</p>	○	本人が施設の見学をし、短期宿泊が使える条件がそろっている時は利用を勧め、納得したうえで馴染める条件で利用出来るように話し合っている。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p> <p>十分築いている。</p>	○	「一緒に生活をする。」を基本に、日々多彩な生活、感情、工夫をし、お互いに支え合った生活をしている。
28	<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている</p> <p>十分築いている。</p>	○	「本当の家族にはなれないが、家族以上の気持ちで一緒に生活をしている。」を理解して頂き、家族に支えていただき家族を支えていきたい。
29	<p>○本人と家族のよりよい関係に向けた支援</p> <p>これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している</p> <p>家族の絆の力は何よりも強く、尊い。再確認をする事の支援をしている。</p>	○	本人や家族の気持ちを理解し、時には電話をかけたり、許可のもとに連絡を取ったり、時には手紙を書いて形を残し、本人と家族が自然に約束をして訪問して頂いたりしている。
30	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p> <p>とても大事にし支援している。</p>	○	家族に報告しながら、許可をもらいながら、訪問を受け入れたり、便りのやり取りを支援している。
31	<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている</p> <p>グループホームの役割や生活の基本を十分に理解し利用者同士の関係を把握し状況に応じた関係づくりに支援している。</p>	○	利用者の生活状況、人間関係を把握する事、また苦情として言えるような機会や時間の確保をしている。今後も機会を更に増やし一人ひとりが人間関係でストレスにならないように支援していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	出来る限り必要とする家族との関わりを大切にしている。	○	必要とする利用者にはなるべく電話などをし継続的な関わりをしている。今後も大切にしていきたい。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	努めている。本人の生活習慣を理解し、本人の希望を聞きながら検討している。	○	入居時のアセスメントを参考に本人の希望や意向を聴き、出来る限り本人本意の生活を危険の無い範囲で支援している。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	努めている。本人の社会的、身体的、精神的状態をアセスメントし、利用経過を把握することを初回の関わりとし、徐々に信頼関係を確立しながら情報収集を行い、把握に努めている。	○	日々の生活より生活習慣を理解し、アセスメント、本人、家族よりの情報を含め、スタッフと情報の共有を行い全員が把握出来るように努めている。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	コミュニケーションの取り方に工夫をし業務優先にならないように、要所所で、しっかり生活状況、全身状態の観察が出来るように、健康チェックや、生活状況の把握に努めている。	○	日々昼夜共に生活しているため、全身状態、生活パターンの把握ができる。本人の出来る能力、力の保有を見極める能力をスタッフは養い、ミーティングなどで話し合い、共有している。更に深めて生きたい。
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族の来所時や、必要な時は電話にて連絡をし、話し合いにより介護計画を作成している。	○	話し合いを基本に本人や家族の希望を取り入れ、現状の生活を報告しながら、意見や家族、本人の独自の発想を取り入れモニタリングを通して介護計画を作成している。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	見直しをし家族と話し合いを中心に、本人の希望を十分に取り入れ、担当者会議を行い、現状に適した介護計画を作成している。	○	特に医療連携、身体的変化、精神的変化があり大きく介護方法、支援方法の見直しが発生した場合は、医療従事者や家族、関係者と担当者会議を持つことにしている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録、アセスメントシートの記録を活用する事に日々の変化を把握し情報の共有をし、実践している。	○	日々の変化をとらえ個別の記録を行い、毎朝のミーティングに、アセスメントをしながら話し合い、介護計画の見直しをしている。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	出来る条件がそろっていれば支援をしている。	○	限られた機能のなかで可能な限り支援をしている。また今後は必要とする高齢者のためにも柔軟な支援が出来るように、新しい発想と地域との関わりの拡大を目指し、更に機能を向上させたい
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	各種機関との連携が取れるように協力体制の確保に努力し、協力を要請しながら支援している。	○	限りある機関ではあるが、利用者の安全を優先に消防、警察の連携を強化している。また地区の消防団、ボランティアと協力しながら支援している。
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	ショートステイの利用者については、必要とするサービスを担当ケアマネジャーと話し合い、他のサービスを利用するための支援を行っている。	○	今後も必要とする利用者には担当者会議を行い、必要とするアドバイスを継続したい。
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	入居や権利擁護に関わる相談を協働する時もある。	○	協働出来ることを家族と話し合い、よりよい方法を選択したい
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望を充分に受け入れ、必要とする医療連携の相談行いながらかかりつけ医との関係を築き継続し本人や家族が安心できる支援をしている。	○	担当者会議を行い、本人に必要とする医療を優先に、情報を共有しながら外来受診、在宅医療の選択を行っている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p> <p>本人の状態に応じて家族と協議し、専門医の受診を勧めている。</p>	○	<p>本人の状況に応じて相談できる関係を築いている。家族と共に納得がいくように、職員だけが気軽に相談出来るように、支援している。</p>
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p> <p>日常的に健康管理、医療連携が取れるように、支援している。また地域の看護職との協議も行い、気やかな関係を築いている。</p>	○	<p>常時看護職の勤務体制が確立しており24時間連携をとり支援している。</p>
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p> <p>充分連携をとり、主治医、医療スタッフ、ケースワーカーとの話し合いを行い、早期退院に向けて支援している。</p>	○	<p>主治医と具体的に病状、治療方針、経過、退院後のフォローアップなど具体的に話し合い、今後の施設生活の継承が可能か等担当者、家族との話し合いを必ず行っている。</p>
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p> <p>本人のために一番望ましく、家族の強い希望踏まえ、主治医、在宅医療チームと話し合いを重ね、方針をかためている。</p>	○	<p>看取り、終末のあり方施設の考えを時間をかけて説明をしている。また本人や家族の考えなど考慮し、一番合った支援の方法を考えている。具体的に文章を提示し、看取りや終末期の説明も欠かさず行い、本人、家族同士の話し合いをした上で関係者全員の考えを一つにし、同意をして貰う。</p>
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p> <p>できること、できないことを良く見極めて支援をしている。</p>	○	<p>利用者の社会的背景から身体的、精神的、家族との関係、主治医の方針、ホーム体制、全てに考慮し、できることも、できないことも、その状況で変化する。よく話し合い本人のために一番望ましい体制を確立し、努力していきたい。</p>
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p> <p>努めている。担当、関係者との話し合いを持ち、本人、家族の希望を重視し情報を提供している。</p>	○	<p>家族、本人の許可に基づき担当者へ情報の提供したり担当者会議を行ったり、本人が不安が無く住み替えられるように支援している。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1)一人ひとりの尊重</p>			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>言葉使い、対応には十分に注意をしている。記録等の取り扱いにも職員一人ひとりが十分に注意をしている。</p>	<p>○</p> <p>個人情報の取り扱いの注意事項に対しての同意書を取り、職員全員に理解を交わしを行い</p>
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>本人の希望や本人が決定したことに納得出来る支援をしつている。希望通りにならない時は理解できるよう説明している。</p>	<p>○</p> <p>出来る限り本人の意に添った支援が出来るようにしたい。</p>
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>各自の生活ペースを保ち、利用者様本意に穏やかに過ごせるよう支援している。</p>	<p>○</p> <p>出来る限り本人の希望を優先に、意に添った支援が出来るように一日一日の日課を確立することなく、本人に何をしたいかを聴くようにしている。</p>
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>希望優先に、望む美容室に出掛けている。身だしなみ、おしゃれに関しても自分で洋服を選び、整容も各自の洗面台で、行っている。</p>	<p>○</p> <p>本人の好みを理解し、気に入るようなおしゃれが出来るように支援したい。</p>
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>出来る限り支援している。</p>	<p>○</p> <p>時には野菜をきれいにしてもらい、テーブルを拭いてもらい、お茶を入れてもらったりしている。各自方が楽しみながら出来るように支援したい。</p>
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>嗜好品には施設の規則を理解してもらい、たばこは遠慮して頂いている。それ以外の物については、日常的に楽しめるように支援している。</p>	<p>○</p> <p>出来る限り本人の希望に添った嗜好品の支援をしていきたいがたばこに関しては、リスクが大きく、支援出来ない事を説明し、理解を得ている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	<p>○気持よい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	<p>十分に支援している。トイレ誘導を行い、介助が必要な場合はトイレ内で介助し、出来る限りおむつの使用を避け、気持ちよく排泄できるパターンを作り、支援している。</p>	<p>○</p> <p>おむつを使用している利用者も状態の良い時はトイレで排便を促す時もある。</p>
57	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>出来る限り一人ひとり希望とタイミングで入浴を支援している。</p>	<p>○</p> <p>職員の都合で曜日をきめ入浴支援している。リスクを抱えるような事の無いように安全な状況で入浴を支援している。</p>
58	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	<p>気持ちよく休息をし、午睡の時間をとったり夜間も出来る限り自然に入眠し睡眠時間の確保が出来ている。</p>	<p>○</p> <p>午睡時間を確保することによって落ち着いて生活が出来ている。</p>
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	<p>○役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>できる限り楽しみや気晴らしが出来るように、音楽、テレビ、読書など、好きなことを好きな時間に自ら楽しめるように支援している</p>	<p>○</p> <p>本人の希望を聴き出来る限り、本人の好きなことを支援している。特に散歩などが好きで良く希望をする。</p>
60	<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>お金を所持し、管理の出来る利用者には支援し、出来ないが、身近に所持したい利用者は、預かり、本人に出納帳を記入、または一緒に記入し、管理を支援している。</p>	<p>○</p> <p>希望に応じて買い物支援を行い、本人がお金を所持し、使うことが出来るように支援している。</p>
61	<p>○日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>出来る限り支援している。施設の菜園を見に行ったり、町内を散歩したり、一人ひとりの希望や、状態に応じ、支援している。</p>	<p>○</p> <p>毎日散歩や外に出る機会があり、それが人の生活として当たり前でしようと言う利用者の声を大切に、支援している。</p>
62	<p>○普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	<p>状態、状況に応じて家族と話し合い支援している。</p>	<p>○</p> <p>外食など普段出来ない事を年間行事計画に入れ、家族協力を得一緒に出掛けられる家族もいれば希望を取り、楽しめるよう支援している。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	支援している。日常的に手紙のやり取りがあり、声かけにより、自然に手紙を書いている。また、年賀はがき、暑中お見舞いなど、季節のお便りを家族に書いている。また必要時は自ら電話をかける事も、支援している。	○	制作活動のメニューに絵手紙、紙すきはがきを作成し、暑中お見舞い、年賀はがきを下記家族にお便りをしている。今後も続けて行いたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも来て頂き、一緒にお茶や、希望時は食事も出来るように支援している。	○	いつも気兼ねなく、気軽に訪問をしている。特に仕事の都合や時間の都合がつかない場合など、支障のない状況で時間の制限をせずに訪問できるよう支援している。
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	取り組んでいる。拘束の必要とするときは	○	状況に応じて、安全を優先するケースもあり、拘束を選択する場合は家族の同意を取っている。今後研修等に参加し拘束のあり方について、更に研鑽していきたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	出来る限り実践している。	○	日中出入口の鍵をかける事の弊害は大変大きい。入居者の行動に落ち着き無く、徘徊が激しい時は、状況によっては鍵をかける場合もあるが、出来る限り掛けない支援をしていきたい。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	把握し、安全に配慮している。	○	時折行動に予測できない時もあり非常に危険とするリスクを常に予測し、行動や関わりに、慎重になってしまう時がある。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	取り組みをしている。	○	指導に徹し、一律にかたづけしてしまう物もあるが、必要とする時、使いたい時は、見守りながら使用することを支援している。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	取り組んでいる。	○	必要以上に慎重に関わってしまう時があり、生活に萎縮してしまうのではないかと思える時もある。なるべく再アセスメントを行い状況の再確認と、計画の変更を行うよう努力したい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>	<p>施設内研修、地区研修等に参加し職員全員が対応出来ることを目標に訓練している。定期的な訓練はおこなっていないが日々話し合いを含め初期対応が出来るように訓練している。</p>	<p>○</p> <p>急変時の状態把握、緊急時連絡、初期対応、など常にリスクの回避を含むミーティングを行っているが、実践訓練の回数が少ないので機会を増やしたい。</p>
71	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>毎月1回避難訓練を行い災害に備え、通報訓練、初期消火ね避難訓練を行い、職員の対応訓練、利用者の行動状況の把握を行っている。</p>	<p>○</p> <p>今後も継続していきたい。</p>
72	<p>○リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている</p>	<p>いつ、どこで、何が起きるか予測できない時もあるため、時には抑圧感を感じた生活を支援している可能性も充分にある。家族に説明もしている。</p>	<p>○</p> <p>安全に、いつまでも元気で生活をして頂く事を基本とするなら、リスクの回避は基本。守りの体制を時には徹底する時もある。</p>
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>○体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>	<p>常に状態の把握に努め、バイタルチェック、水分チェック、トイレの回数、排尿、排便の性状の確認を行っている。状態の変化、の把握は緊急性の有無を日々朝の申し送りに確認、連絡を行い必要に応じて対応の選択をしている。</p>	<p>○</p> <p>24時間対応できる体制を確立している。今後も充分確立出来るよう、安心した生活支援に力を入れている。</p>
74	<p>○服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>理解できるように、指導している。</p>	<p>○</p> <p>わからない時変化がある時などいつでも文献を広げることが出来るように指導、準備している。</p>
75	<p>○便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>	<p>日常の食事、水分に十分配慮し、食後運動を行い、排便管理がしやすいように記録をダブルチェックにするなどをして工夫をしている。</p>	<p>○</p> <p>緩下剤、浣腸など医療連携をとりコントロールをしている。出来る限り自然排便を促せるよう努力している</p>
76	<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>	<p>口腔ケアは欠かさず毎食後行う支援をしている。</p>	<p>○</p> <p>定期的に協力歯科医の検診が出来るように支援している。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	状況に応じ、また状態に応じた食事、バランス、水分が取れるように、栄養士指導に基づき、カロリー計算を行い食事の支援をしている。	○	メニューの工夫や食べやすく、好みの食器など揃えて楽しめる、食事の提供を支援したい。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	施設マニュアルを作成し、消毒薬の選択を薬剤師、専門業者に相談し、消毒をしている。また利用者、職員の手荒いの徹底、外来者の手指の消毒、マスクの着用も必要に応じて、励行している	○	施設マニュアルの充実を更に図り、感染予防に更に力を込めたい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	一日の終わり頃、必ず調理器具、シンク周りの消毒を行い、保存食料の管理も充分気を付けるように配慮し、冷蔵庫管理も毎日欠かさず行っている。	○	新鮮な食材で食事が提供出来るように、毎日買い物を行い家庭的雰囲気、好きな物をその日のうち作り、食卓に出せるようにしている。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	間口は狭いが、施設らしくなく、家庭の玄関らしい雰囲気がある。安心して出入りも出来るように、小さな坪庭、テーブルがあり、ささやかな憩いの場所がある。	○	玄関前の空間が利用者にとってお気に入りの場所であり、時々この場所でお茶を飲むとこを楽しみにしている。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節時折の小さな手作りオブジェを飾り、生活感や季節感のある空間を提供している。また照明の光色やトーンを工夫し落ち着いた環境を工夫している。	○	生活雑音が共鳴し、時々利用者が落ち着かなくなる時がある。職員一人ひとりが配慮した支援を行っていききたい。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食後やお茶の時間後、利用者一人ひとりが自由に過ごせるよう、テレビの前のソファやオープン和室といった空間がある。ワンフロアだが各ゾーンを確立し落ち着いた空間を提供している。	○	食後、夜の団らん、などそれぞれに各ゾーンです後している。状況をみて誘導をして落ち着いた時間の確保をこれからも支援したい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの生活用品を持参してもらい、本人が環境に早く慣れ、居心地の良い空間で生活出来るように支援している。	○	居室には昔使っていたダンス、仏壇、遺影など持参し生活をしている。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気の上よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	状況に応じて空調の管理を行っている。	○	ホールの換気は処置ご、清掃時など出来る限り自然換気を行い、よどみのない空気快適な環境を支援している。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全面を優先に建物機能を確保している。障害のない広いフロアー、やオール電化、広すぎず角のない風呂場、オープンキッチンなど、自立支援ができる用に工夫してある。	○	自ら広いホールで歩行運動、リハビリ体操などを行い活用している。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	一人ひとりの分かる力を理解し、混乱、失敗はなかなか防げないが励まし、声かけを行いながら、自立して生活できるように支援している。	○	日常の生活状態、身体状態、精神状態を日々熟知し、出来ること出来ないことを知り、出来ないことは生活の中で自然に声掛けを中心に、自立目標を計画に織り込み支援している。また今後充実できるように話し合っ生きていきたい。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダの活用は洗濯物を干す程度、外周りには季節の草花を植え楽しんだり、玄関先には坪庭、テーブルを配置し時々お茶を楽しむ。散歩の帰りは、畑に寄り花や野菜を取り楽しんでいる。	○	住宅地のため建物周りが道路に面し利用者が外に出ると近隣の住宅の皆様の声掛けがあり、更に楽しめる。

V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない

項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように
		<input type="radio"/>	②数日に1回程度
		<input type="radio"/>	③たまに
		<input type="radio"/>	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている
		<input type="radio"/>	②少しずつ増えている
		<input type="radio"/>	③あまり増えていない
		<input type="radio"/>	④全くない
98	職員は、生き活きと働いている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が
		<input type="radio"/>	②職員の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③職員の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
		<input type="radio"/>	②家族等の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③家族等の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

住宅地の中でいつも近隣の生活の声や音が聞える。
 家庭的な雰囲気を感じていることほろろ感じる人という少人数で、日々穏やかにのんびりと生活している。医療連携を確立し、終末、看取りを支援して3年が過ぎようとしている。人生の終末と家族という絆を確立しているから手を取り合ってその手を迎える。家族にはほろろくとも家族の代わりにほろろよう信頼しあっている。確立して、本人が穏やかに、家族と一緒に安心して見送ることができるよう支援している。